

(別紙2)

令和4年度離島漁業再生支援交付金漁業集落实績報告

令和5年3月15日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：石垣市

島名：石垣島

協定対象漁業集落名：石垣市漁業集落

協定参加世帯数：226世帯(257人)

(うち漁業世帯数：226世帯(257人))

2. 協定締結の経緯

石垣市周辺海域において、乱獲や漁場環境の悪化等により魚介類の減少や魚価の低迷が続いている現状に合って、漁業者の高齢化及び減少等の課題を抱えているため、種苗放流、漁場の管理・改善等、漁場の生産力向上に関する取組と魚類養殖の安定化や担い手育成と伝統文化の継承等の漁業の再生に関する実践的な取組を実施することにより、地域漁業の活性化を図り漁業所得を向上させ、漁業世帯数及び漁業就業者数の維持と集落の漁業生産活動によって発揮される多面的機能の確保を目指して離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

ア 種苗放流

減少が著しい磯根資源の増大を図るため、ヒメジャコとヒレジャコの種苗生産に取り組み、放流用種苗の自給が可能か検討した。

イ 漁場の管理・改善

サメによる漁獲物の横取りや漁具被害等があるため、サメ駆除を実施して生産性の向上及び安全操業の確保を図ることとした。また、ナミハタ等の魚類が産卵時期に一斉に水揚げされるなど乱獲等により減少している資源の回復を目的に、八重山周辺海域6個所で全魚類を対象とする禁漁区を設け、資源の回復と漁獲量の増大を図るため資源管理の取り組みを行うこととした。

ウ 産卵場・育成場の整備

曳縄漁業による漁獲量の安定供給を図るため、パヤオを製作・補修し設置・浮体の交換をした。またパヤオの保守点検を実施することで操業の安定化を図ることとした。

エ 漁場の監視

水産資源の保護及び密漁撲滅を図るため、漁場の監視活動を行った。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

オ 新規養殖業への着業

有性生殖によるサンゴ種苗の生産性向上を目的とした、視察研修等を実施した。

カ 魚類養殖の安定化

沖縄本島から、養殖用種苗を輸送するために使用する活魚タンクを導入した。また、養殖網の付着物をフグが摂食し、網が損耗する被害が生じていることから、登野城養殖場の周辺のフグ駆除を実施した。

キ 海藻養殖の安定化

養殖モズク先進地の視察を行い養殖モズクの品質管理・向上を図った。

ク 担い手育成と伝統文化の継承

伝統文化であるハーリー体験や料理教室を実施して魚食普及を図った。

4. 取組の成果

交付金交付対象漁業者所得平均 2、602千円 ※1

漁業集落漁業就業者数 257名 ※2

ア 種苗放流

親貝の採捕を計2回実施し、放卵放精処置を実施した結果1000万から1500万(目視による推測)の放卵の確認が出来た。しかし施設内の顕微鏡にて放卵した卵の状態を確認したところ目視で8割~9割の卵が奇形だったため種苗生産、放流などは断念したが今後における効率的な種苗生産に資すると考えられる。

イ 漁場の管理・改善

サメ駆除を実施し115匹の駆除し、人的被害も無く、漁具被害の減少等安全な操業が可能となったとの意見もあることから今後も被害数の推移をみながら引き続き検証が必要である。また、水産動植物の禁漁区を6区設定する事により、未成熟の個体の水揚げが減り、魚類の乱獲を防いだことでナミハタ等の産卵により資源の回復が期待でき、生産性の向上が図られると考える。

ウ 産卵場・育成場の整備

老朽化したパヤオの修繕・再設置と浮子の傾き等の劣化が見られたパヤオの修繕・交換のための整備を実施した結果パヤオ漁を営む漁業者の安全効率的な漁業に貢献したと考えられる。また、パヤオ漁では令和3年1月~12月間の水揚実績(108t)から令和4年1月~12月間の水揚実績(111t)と、漁業の全体的な漁獲量が減少している中でパヤオ漁は前年度より漁獲量は上がっており、効果があったと思われる。

エ 漁場の監視

密漁パトロールを4回実施しSNSでの周知等の活動により漁業権や漁業調整規則等の周知が図られ水産資源の保護等に効果があったと思われる。

オ 新規養殖業への着業

サンゴ学会への出展・視察や閉鎖循環式環境に置いての種苗生産技術を学ぶため東京への視察研修によって新たな種苗生産の可能性を模索した。

カ 魚類養殖の安定化

養殖用種苗の輸送に使用する活魚タンクを2基導入したにより輸送能力が向上され、今後の生産拡大等へ資する効果があったと考えられる。また、登野城養殖場において6尾のフグの駆除したことによって養殖網の損耗による被害を未然に防ぐことができ、養殖魚の逃失を防ぐ効果があると考えられる。

キ 海藻養殖の安定化

沖縄本島において栽培漁業センター、伊是名漁協、伊江島漁協、宮古島漁協のモズク先進地を視察訪問した結果、集落においてモズク養殖に携わる漁業者たちの生産技術向上に寄与したと考える。

ク 担い手育成と伝統文化の継承

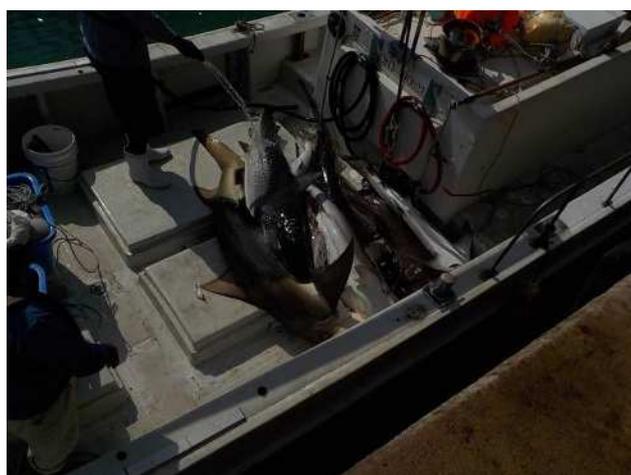
小学生の年間行事のひとつとして地域・学校と連携しハーリー体験計4回を行った。また、地元高等学校での料理教室を計2回開催したことにより、若年層に魚や魚を使った料理への関心を高めることができ、魚食普及を図る効果があったと考えられる。

こういった活動を継続することで、子供達の魚への関心を高める効果があり、後継者育成に繋がっていると考えられる。

※1及び※2の記載は必須とする。交付金交付対象漁業者所得とは、交付金交付対象世帯の1人当たりの所得を平均したもの。



種苗放流 シャコガイ種苗生産の様子



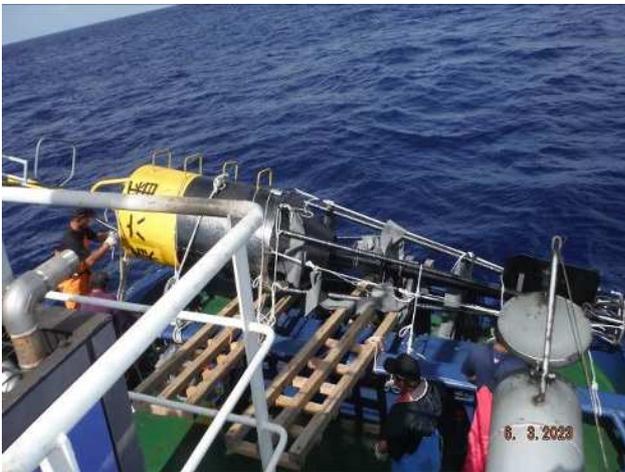
漁場の管理・改善 サメ駆除の様子



漁場の管理・改善 資源管理 ブイ作製の様子



産卵場・育成場の整備 パヤオブイ設置の様子



産卵場・育成場の整備 パヤオブイ交換の様子



漁場の監視 密漁パトロールの様子



新規養殖業への着業 サンゴ研修の様子



新規養殖業への着業 サンゴ視察の様子



魚類養殖の安定化 活魚タンク（2基）



魚類養殖の安定化 フグ駆除の様子



海藻養殖の安定化 モズク視察の様子



担い手育成と伝統文化の継承 ハーリ体験の様子



担い手育成と伝統文化の継承 料理教室の様子

（注）3及び4については、主な取組について写真や数字、グラフ、図などを用いて具体的なイメージが持てるようにすることとする。